

JR貨物ニュース

発行所 ㈱ジェイアール貨物・リサーチセンター TEL03-6856-4323・FAX03-6856-4324

地球環境を考えた21世紀の物流を…

総合物流企業グループの総力を結集して
JRFグループ経営者連合会

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-33-8 サウスゲート新宿5階

TEL 03-6856-4321 FAX 03-6856-4324

温度管理物流に 31フィート冷凍コンテナを投入

全国通運(株)

全国通運(株)は、今年度中の31フィート冷凍(UF)コンテナ新造を決めた。この冷凍コンテナはエンジンと冷凍機が搭載され、庫内温度をマイナス25〜プラス25度で設定可能。GPS動態温度監視システムによりオンライン時も温度データをチェックでき、24時間365日監視可能だ。

近年、食の多様化や冷凍保存技術の向上により、生鮮野菜や果物、冷凍食品、医薬品など、定温輸送の市場規模が年々拡大している。そうした輸送ニーズに対応するため、全国通運(株)も31フィート冷凍コンテナを商品ラインナップに加える。

全通の31フィート冷凍コンテナは、温度設定や冷凍機のON・OFFなどの作業をオンラインで遠隔コントロールでき、例えば輸送中に異常があった場合、遠隔操作で冷凍機を再起動できる。

鉄道輸送用の温度管理コンテナは現在、全て私有コンテナだ。同様の31フィート冷凍コンテナを運用する(株)フジッコも、今年度中に10個増備して152個体制とするなど、モダリントを進めている。

全通の小野善明取締役営業本部長は「現在、冷凍コンテナをレンタルしていますが、季節変動や追加オーダーへの対応が難しい状況です。温度管理物流を要望されるお客様にフレキシブルに冷凍コンテナを提供することができれば、波動対応等の一助になると思います。モ



小野部長

全通の31フィート冷凍コンテナの荷室は1室で、容積は44・06立法尺、積載重量は12・4トナ。内寸は高さ2276×幅2275×長さ8510mm。通常の31フィートコンテナはT11型パレットを16枚積み重ねられるが、エンジンと燃料タンクを積むための14枚となる。

12フィート冷凍コンテナについては、(株)和通運はじめ数社が保有するが、一部機材メーカーが撤退するなど使用に制限がある。内壁に断熱材を使い、ドライアイス等を併用しながら庫内温度を一定に保つ12フィート冷蔵(UF)コンテナは、日本石油輸送(株)が約7000個を保有。さらに保冷性能を高めた「スーパーU」も定温輸送の担い手として力を発揮しているが、マナスイ温度帯には対応しない。定温輸送は一定の需要が見込まれるため、JR

には、このコンテナを鉄道で活躍させるため、全通が販売代理店として営業を行う予定だ。

「水感SO庫は、食材などを変質させず鮮度を維持・熟成・解凍できるため、鉄道輸送では難しかった生鮮野菜や生肉などのデリケートな食品輸送もできるでしょう。蓄電池を電源とするため、化石燃料が不要で環境にも配慮されている。収穫後の野菜なども選果場で水感SO庫に保管しておき、出荷のタイミングを見て輸送するということが可能です」と小野部長は話した。

「コンテナ置き場や専用パースを作っていたこともありますが、モダリントをするところによって、結果的にパースを占有する時間が短くなり、パレット化して効率が上がったというお客様の声もありました」と小野部長は話した。

全通では、新造する冷凍コンテナも合わせて31フィートコンテナの利用拡大を図っていく考えだ。

試作リノベーションコンテナ 『水感SO庫』『SORAコン』プレゼンテーションイベントを開催

12フィートコンテナを改良して機能・価値を高めたリノベーションコンテナを、(株)ジェイアール貨物・南関東ロジスティクスと一般社団法人日本事業団体連合会が業務提携し、開発を行って早期の実用化に向けて各種試験を実施予定だ。

10月6日に、試作コンテナのプレゼンテーションイベントが東京(有明)で開催された。説明会では「水感SO庫」と「SORAコン」が展示され、コンテナの機能・特長について担当者より説明が

あつた。

水感SO庫は、冷蔵したコンテナ内部(真空断熱材貼付)に高電圧・低電流で静電場を形成することで、凍結点でも凍らせず、食品などの鮮度を維持しながら長期保存ができるコンテナだ。用いられている水感技術は、すでに冷蔵庫、倉庫、トラックにおいて実用されており、いちごは10〜20日間、玉ねぎ・馬鈴薯は6か月間と長期間保存できることだという。米や肉などに対しては、熟成効果があり、うま味が増すという検査結果が出ている。さらに、肉や刺身などをこの技術により低温解凍すれば、ドリップの流出も防げる。保管時は、外部電源により充電・可動し、輸送時は充電された蓄電池を使用するため、一つのコンテナで保管と輸送の両方が可能となる。

SORAコンは、庫内の温度変化を防止するために特殊塗装を施し、コンテナ屋根に太陽電池モジュールを埋め込み、コンテナ内の換気扇を作動させる。24時間換気を行うことで、これらに比べて高温状態にならず、輸送・保管時も積載物の品質を保つことができる。

プレゼンテーションイベントに来賓として出席したJR貨物の田村修二社長は「今回開発しているコンテナは新技術を活用した画期的なタイプだと評価しております。将来的に定温輸送の分野をさらに拡大していきたいと思っていますので、リノベーションコンテナをバックアップしていきたい。極めて良いアイデアですが、まだまだ試作段階ですので、様々な試験輸送をして、商業ベースにのるかどつか、商品としての成り立ちかどうかを考えていきたい。できるだけ早く実用化されればと思います」と挨拶した。

12フィートコンテナを改良して機能・価値を高めたリノベーションコンテナを、(株)ジェイアール貨物・南関東ロジスティクスと一般社団法人日本事業団体連合会が業務提携し、開発を行って早期の実用化に向けて各種試験を実施予定だ。

10月6日に、試作コンテナのプレゼンテーションイベントが東京(有明)で開催された。説明会では「水感SO庫」と「SORAコン」が展示され、コンテナの機能・特長について担当者より説明が

国際物流は40ftラックコンテナで

特許

発工場からエンドユーザーまで

バン、デバン一切不用

(国際規格と国内規格の互換性がきく唯一のシステム)




全国通運株式会社

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-9-10 茅場町プロードスクエア6F

電話 03-6861-6524(代)
FAX 03-6861-6535
ホームページ <http://www.zentsu.co.jp/>

12フィートの鉄道コンテナが3個収まる40フィートサイズの「ラックコンテナ」

JR貨物ニュースは再生紙・大豆インクを使用しています。